ワイドカラ

WIDE COLOU

三菱G4M

一式陸攻

ockwell International

U.S. AIR FORCE

☆特集☆

カラーで見るインド空軍のMiG-21

増強されるソ連の海軍航空戦力を解剖

1974年度ウイリアムテル射撃大会ルポ

'75 2

FEBRUARY

BUNRIN-DO JAPAN

$3.30

Contenders in William Tell Tyndall AFB

F-106A of 49 FIS, ADC, Griffiss AFB, N.Y.

F-106A of 186 FIS, 120 FIG, Montana ANG, Great Falls, Mont.

カテゴリーIIIのF-106の部で優勝したモンタナ州航空隊第120戦闘迎撃大隊（120FIG）第186戦闘迎撃飛行隊（186FIS）所属のF-106A。同飛行隊はモンタナ州のグレート・フォールス基地がホームグランド。

F-102A of 190 FIS, 124 FIG, Idaho ANG, Boise, Ida.

〔左〕カテゴリーIIに参加したペンシルバニア州航空隊の第112戦闘迎撃大隊（112FIG）第146戦闘迎撃飛行隊（146FIS）所属のF-102A。同飛行隊のホームグラウンドはペンシルバニア州のピッツバーグ。

〔下〕カテゴリーIのF-101の部に参加したノースダコタ州航空隊第119戦闘迎撃大隊（119FIG）第178戦闘迎撃飛行隊（178FIS）チームのF-101B。胴体下に装備しているのはAIR-2Aジーニ空対空ミサイル。

↑F-102A of 146 FIS, 112 FIG, Pennsylvania ANG, Pittsburg, Penn.

10月19日から11月1日まで，フロリダ州のティンドル空軍基地で開かれた1974年度ウイリアムテル競点射撃大会には，アメリカの防空を担当するF-101，F-102，F-106戦闘迎撃部隊から8チームが参加して行なわれた。各チームは飛行機4機と4人のパイロット，ウェポン・コントローラー2人に地上要員という編成。代替機は使えない実戦さながらのシビアな競技規定。前後方攻撃，高々度・低高度攻撃，スクランブル上昇攻撃，夜間攻撃の各種目に熱の入った競技を展開した。

次ページ写真上はカナダ国防軍から参加した第416全天候戦闘飛行隊のF-101B。写真下はカテゴリーIVの夜間攻撃の標的機となったB-57B。カンサス州航空隊所属機である。

➡F-101B of 178 FIS, 119 FIG, North Dakota ANG, Fargo, N. D.

F-101B of 416 Allumether (F) Sq, Canadian Forces

B-57 of Kansas ANG

沖縄のSR-71A

Lockheed SR-71A Black Bird stationed on Okinawa

沖縄の嘉手納基地に配備されているSR-71A戦略偵察機。上の写真は右エンジンのアフターバーナをふかして上昇中のもので，ラダーが右寄りになっているのに注意。(Photo by T. Watanabe)

F-5E Tiger II of Navy Fighter Weapons School, Naval Air Facilities, wash. D.C., 22-Oct-74 Photo: Dr. J.G. Handelman

F-5F複座戦闘練習機

海兵隊のA-4E

（上）去る9月25日にエドワーズ空軍基地で初飛行したF-5F複座練習機の1号機。F-5Fは2機が作られて，エドワーズでテストされることになっている。
（下）海兵隊のA-4Eスカイホーク（150023）。これも海軍戦闘武器学校で使われている1機である。10月24日，ワシントンDCの海軍航空施設で撮影。

A-4E Skyhawk of Navy Fighter Weapons School, NAF, Wash. D.C. Photo by J.G. Handelman

インド空軍のMiG-21FL

MiG-21 FISHBED of Indian Air Force.

Photo. AIR INTERNATIONAL

MiG-21FL of the Indian AF deployed in the southern sector.

インド空軍の主力戦闘機として，約200機が装備されているとみられるMiG-21FL。インド空軍は東部，南部，中央と三つの防衛地区に別れているが，写真のオリーブグリーンとダークアース迷彩機は南部地区配備の機体。1971年12月のパキスタンとの紛争以来，この迷彩を採用している。しかし迷彩パターンの正確な基準はなく，下の写真の迷彩の2機は同一飛行隊の所属機であるが，ごらんのようにバラバラの仕上りである。

(Photo: AIR INTERNATIONAL)

↑ Indian AF MiG-21U aliac Type 66-600 series.

［上］インド空軍のMiG-21U複座練習機。垂直安定版の面積を広くし，尾部にドラッグ・シュートのフェアリングをつけたタイプ66-600シリーズと呼ばれる型である。インド空軍の第一線のMiG飛行隊では，本機を2機ずつ装備して練度保持のための飛行訓練や各種の点検などに使っている。単座のMiG-21FLは，胴体の国籍記章が主翼の前方につけられているのみであるが，複座の本機では，前後両方につけられている。

↑ MiG-21FL fitted with UV-16-57 rocket pods under the wing

(Photo: AIR INTERNATIONAL)

［上・左］これもインド空軍のMiG-21FL。左の写真の機体では垂直尾翼付根のドラッグ・シュート収納部扉が開かれている。上の写真の機体は胴体下に490-ℓ入り落下増槽を吊し，主翼下には57mmロケット弾16発を入れるUV-16-57ポッドを吊している。

〔下〕胴体下にGP-9機関砲パックをつけ，主翼下には赤外線ホーミングのK-13A空対空ミサイルを装備したMiG-21FL。GP-9パックには2連装の23㎜GSh-23機関砲と弾薬が組込まれている。K-13Aはサイドワインダー級のAAMだが，その“実力”のほどは不明。インドでライセンス生産されている。

⬇ GP-9 gun pack installed on IAF MiG-21FL at Indian Base Repair Depots.

(Photo: AIR INTERNATIONAL)

⬆ Indian AF MiG-21FL with cockpit canopy opened.

(Photo: AIR INTERNATIONAL)

〔上〕風防を開いたMiG-21FLの操縦席付近。MiG-21の射出座席は，のちのPFM型で改造されるまで，風防が座席と一緒に射出されるセミ・カプセル式のもの。風防はパイロットをおおうようにして射出され，落下傘が開くまでパイロットを保護する。

大物2種・・"110G"と"ボーファイター"

新製品

レベルのビッグスケールモデルを作りましょう。
すべてに冷静なマニアでも、作っている時は無我無中。
しかも大物ならば自慢の腕も更に冴えます。さあどうぞ。

ブリストル
ボーファイター　MK-1F

英空軍の長距離双発戦闘機、レーダーを装備して、夜間来襲するドイツ爆撃機を迎撃して戦果をあげた有名機です
●H-251 1/32スケール
全長39.5cm　全幅55.3cm ●¥2,300

ッサーシュミット
f-110G-4

2次大戦で活躍したドイツの双発戦機、機首にユニークなレーダーアンナが突出したこの夜戦型は、英空軍夜間爆撃機の迎撃に活躍しました
H-250 1/32スケール
長40cm　全幅50.8cm ¥2,300

Joyful Revelldom
この素晴らしい模型 この楽しさ!

レベル1/12スケール オートバイ シリーズ

新製品

世界の傑作マシンが1/12スケール精密モデルで登場しました。ビッグスケールに負けず劣らずの超精密モデルです。第1弾として日本の傑作車4種をそろえて発売。
ぜひお楽しみ下さい。
レベル1/8 スケールオートバイシリーズもあわせてどうぞ。

カワサキ500-SS　マッハIII
●H-1500　全長17cm　●¥900

ヤマハ250DT-1
●H-1502　全長17cm　●¥900

カワサキ マッハIII500 レーサー
●H-1505　全長17cm　●¥900

ヤマハ250MX
●H-1506　全長17cm　●¥900

'73レベル総合カタログ全44頁カラー刷りのデラックス版
●お求めは模型店でどうぞ一1部¥300 ●当社へ直接お申し込みの場合は、¥300+送料¥100を切手でお送りください。

プラスチックモデルは
レベル
グンゼ産業(株)レベル部
東京都千代田区神田錦町3-17
TEL 294-4141代

Indian MiG-21FL fitted with GP-9 gun pack and a pair of K-13A infra-red homing AAM.

20ページ右の写真と同じく，GP-9機関砲パックとK-13Aミサイルを装備したインド空軍のMiG-21FL

(Photo: AIR INTERNATIONAL)

ロールアウトしたB-1爆撃機

USAF/Rockwell B-1 Bomber makes debut

去る10月26日，カリフォルニア州パームデールの空軍施設内に設けられたロックウェル・インターナショナルの最終組立工場をロールアウトしたB-1爆撃機の原型1号機。同機はロールアウト後ただちに初飛行の準備のためにエンジン・テスト場に運ばれた。初飛行は12月末までに行なわれ，まもなく完成する2号機とともに，2年間にわたって飛行テストがつづけられることになる。

B-1 rollout ceremony at Palmdale, Calif. 26 Oct. 74.

ロールアウトののちエンジン・テスト場に運ばれるB-1の原型1号機。B-52の後継として作られたB-1は最大速度マッハ2の可変翼機。全長151ft(46.02m)，全幅137ft(41.75m)とB-52にくらべると約2/3のサイズだが，有効積載量は約2倍。レーダー網の盲点をつく超低空侵攻を本領とする爆撃機でもある。かつてのXB-70を思わせる鋭い機首とすんなりとした胴体。尾部に電子格納室の大きなフェアリングを突き出した爬虫類のような外形である。

B-1はマッハ2の高速であるとともに，低速時に展張する可変(VG)翼を採用しており，離着陸の性能がすぐれていることも特徴の一つ。民間のDC-9やボーイング737級の双発機が使用している飛行場からの作戦もOK。B-52の場合にくらべて，アメリカの現用飛行場さらに150が使用可能であるという。原型機3機を含めて244機を生産する計画であり，1970年代末に実戦配備，まもなく就役20年という老兵B-52と交代する。

No. 1 Prototype of B-1 Bomber

到着した航空自衛隊のRF-4E

RF-4E of JASDF (47-6902) arrives at Hyakuri Base, 3 Dec. 74.

航空自衛隊が14機購入することになった新型偵察機RF-4Eの1番機が，去る12月3日，グァム島経由で飛来，百里基地に到着した。上と下の写真は，アメリカで領収した2号機。航空自衛隊のRF-4Eはすでに西ドイツ空軍に就役している機体と同じく，機首と前部胴体に偵察用カメラを4台装備したもの。1，2番機につづいて，月3機の割合でアメリカから空輸され，今年の10月頃にはRF-86Fに代って新しい偵察飛行隊が編成されることになっている。上の写真では機首と前部胴体下のカメラ窓がよくわかる。胴体下に装備しているのは"エロス"衝突防止装置。

YF-17とF-5Eの飛行テスト

YF-17 and F-5E under flight tests at Edwards AFB

〔上・下〕エドワーズ空軍基地でテスト中のYF-17の1，2号機。両機は去る11月15日で200回の飛行テストを終えており，最近のテストでは，両機相互間およびF-4Eを相手にしての模擬空戦，Mk.84 2,000-lb爆弾の投下テスト，M-61 20mm機関砲の超音速および亜音速での発射テストなどを行なっている。

〔右〕カリフォルニア州パームデールのテスト飛行場を飛び立って，美事な垂直上昇するF-5EタイガーII。タイガーIIはT-38/F-5シリーズの最新型。最近同シリーズとして2,500機目の機体が完成している。

初飛行したMRCAの2号機

MRCA No. 2 machine first flight successful

10月30日にBACの軍用機部門ワートン飛行場で初飛行したMRCAの原型[illegible]号機（02）。ワートン飛行場では，02号機につづいて03号機，08号機が完成の予定で[illegible]機が初飛行した西ドイツのマンヒンクでは，04，07号機が組立てに入っている。

ウイリアム・テル'74

（本文83ページ参照）

ティンドル空軍基地

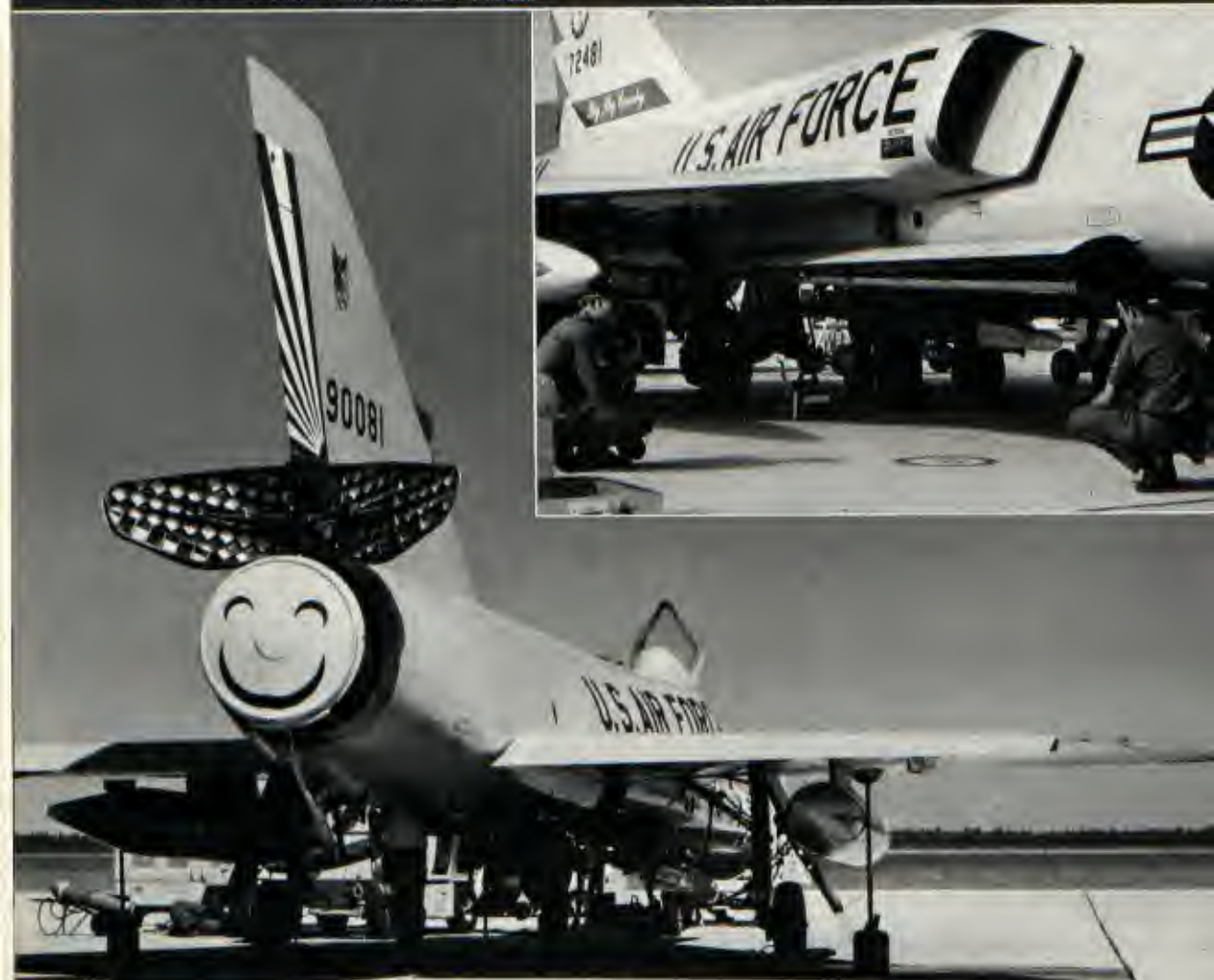
William Tell '74, Tyndall AFB

16
0-70832
U.S. AIR FORCE
U.S. AIR
0-70813

左ページは標的を追跡飛行中の第146戦闘迎撃中隊（FIS）のF-102A（上）とスクランブル種目で離陸する同中隊機（下）。このページは第190戦闘迎撃中隊所属のF-102A。同中隊は今回の競技会のF-102部門で優勝した。

(Lft page top) F-102 of 146 FIS in pursuit of target. (Left below) The same Sqdn air craft in scramble. (This page) F-102A of 190 FIS. The 190 FIS won the competition in the F-102 division.

上は競技に飛び立つ第318戦闘迎撃中隊所属のＦ-106Ａ。中は胴体下の弾倉に競技用のファルコンミサイルを装備する第186戦闘迎撃中隊のＦ-106Ａ。下は排気口カバーにスマイルマークを画いた第49戦闘迎撃中隊機。

(Top) F-106A of 318 FIS. (Middle) F-106A of 186 FIS fitted with Falcon missiles for use in game under the wing. (Below) Note the "smile" marking on the air-intake cover. 49 FIS.

上は着陸するＦ-106Ｂ。右は競技を終えてエプロンで翼を休める第186戦闘迎撃中隊のＦ-106Ａ．Ｆ-106部門ではこの中隊が優勝した．下はエプロンに並ぶ手前から第49，186，190戦闘迎撃中隊所属機。現在では正規の防空軍団（ＡＤＣ）に所属するＦ-106部隊はわずか６個中隊のみであとはすべて州空軍（ＡＮＧ）所属になっている。

(Top) F-106B. (Right) F-106A of 186 FIS, the squadron team trophy winner. (Below) Participants from the 49, 186 and 190 Sqdns. Only six F-106 sqdns are now under the command of ADC, others are with ANG.

上はエプロンで待機す
第178戦闘迎撃中隊所属
F-101B、左はカナダ国
軍からの参加チーム 第4
全天候戦闘中隊のF-101
下は第4種目の夜間競技
標的機に使用された、レ
ダー妨害装置を持ったE
-57。この競技の標的機に
このほかT-33、F-101な
も使用された。

(Top) F-101B of 178 I
(Left) Participants fro
Canadian Defense Forc
The F-101B of Allweat
Sqdn. (Below) EB-57
fitted with radar encro
chment system, that wa
used as the target in
four night-hour games.

上は胴体下面にジニーミサイルを取りつける第132戦闘迎撃中隊のF-101B。F-101の部門ではこの中隊が優勝した。左はF-101の胴体下面に装備されたジニー空対空ミサイル。下は競技を終えてエプロンにもどる第178戦闘迎撃中隊所属機。

インドネシア空軍のMiG-21F

インドネシアのジャワ島ジャカルタの郊外に展示されているインドネシア空軍のMiG-21F。スカルノ時代にソ連と密接な関係をもった同空軍では、MiG-21をはじめMiG-17、MiG-15などの戦闘機やTu-16、Il-28などの爆撃機、ヘリコプタなど多数のソ連機を導入したが、戦闘機のほとんどはストックされたままである。

Mig-21F displayed at outskirt of Jakarta, Java Is. The Indonesian AF introduced many aircraft from the USSR such as MiG-17, MiG-15, Tu-16 and Il-28 during the Skarno regime.

Indonesian AF's MiG-21F

ほかの共産圏の空軍ではまだ第一線機として使用されているMiG-21Fも、ごらんのように広場に展示されて一般に供覧されている。インドネシア空軍が装備したのは初期のMiG-21のエンジン推力を向上した型で，垂直尾翼がやや大きなものとなったほかは，初期型と外形は変りない。装備機数は15機。このページは展示機各部のクローズアップ。

MiG-21F. This is the thrust-increased version of MiG-21. No difference from the early version except for a larger vertical tail. A total of fifteen MiG-21Fs were introduced then.

フォート ニュース

1月号でご紹介したとおりコンコルド02号機が米太平洋岸でのデモ飛行を完了した。同機は、42,830kmにおよぶアメリカ大陸太平洋岸へのデモ飛行をわずか30飛行時間以内で完了、10月28日パリに帰着した。乗客を乗せての飛行であったこと自体意義あるものだったが、今回の飛行のハイライトは、同機に対する高い人気と信頼性にあったといえる。上はメキシコ・シティ空港を離陸するコンコルド02号機。下は同空港におけるコンコルド02号機。同機は左をエア・フランス、右を英国航空の塗装に塗られている。(Photo by A. Gibson)。

ロックウェル・インターナショナルB-1戦略爆撃機が去る10月26日、ロスアンジェルスのパームデールB-1工場でロールアウトし初公開された。この日は土曜日とあって1万人以上の参観者がつめかけ、ジュレジンガー国防長官は「アメリカの防衛戦略にこれ以上に満足すべき戦略爆撃機はほかにないであろう」と賛辞を送った。

Official rollout of the B-1 was held October 26, 1974, at Rockwell International Palmdale plant, Calif. Some 10,000 guests were present for ceremonies at which Defense Secretary J. R. Schlesinger gave keynote address.

B-1は、B-52の後継機としてアメリカ空軍が「トップ・プライオリテー（最優先順位）」をあたえて開発していたもので、いわゆる「トリアッド・デフェンス・コンセプト（防衛を立体的、多面的に考える構想）」の一角を完全にになうものと期待されている。初飛行は12月中に行われる予定。左ページと上はロールアウトしたB-1。左と下はエンジンテスト中の同機。

The B-1, designed to replace B-52, is regarded as Air Force's top priority research and development project.

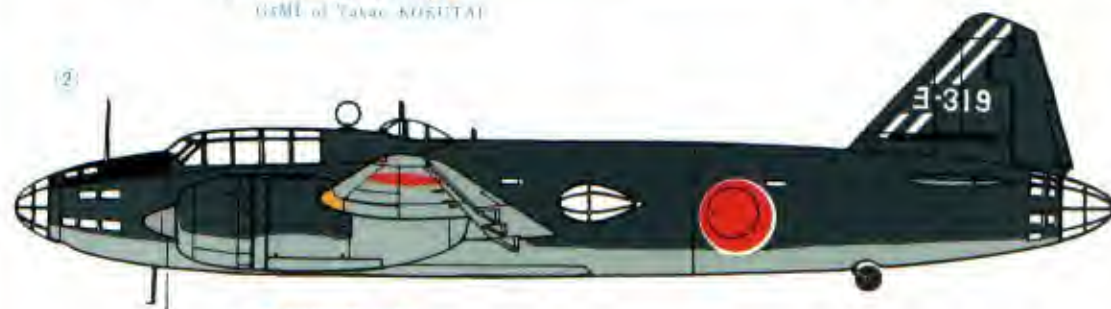
このページはソ連の戦略用ロケット。11月19日の「ロケット部隊と砲兵隊の日」に撮影されたもの。ロケット部隊の兵士は、昼夜、晴雨の別なく、たえずソビエト人民の平和を守るためにきびしい任務についている（TASS）。〔右ページ〕ソ連のAn-22が2つの世界記録を樹立した。1つは30,000㎏の荷物を搭載しての平均597㎞/hで5,000㎞の巡回飛行。もう1つは35,000㎏を搭載平均590㎞/hで同コースの飛行に成功したことである。写真は飛行記録を樹立したときのAn-22の乗員たち（TASS）。

(Left page) Soviet strategic rocket. (Right page) Soviet AN-22 Turboprop transport makes two world flight records.

スナップ　だより

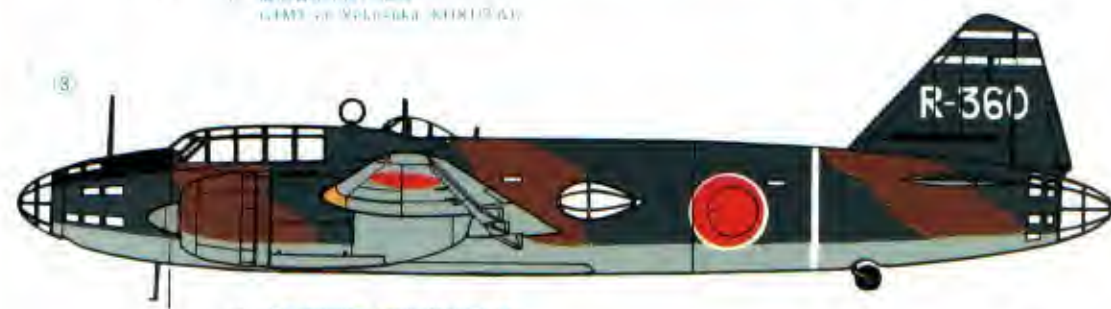
〔上〕厚木基地に着陸する新塗装になった第1艦隊偵察飛行隊（ＶＱ-1）所属のＥＰ-3Ｂ対潜哨戒機。胴体と尾翼の帯は青、こうもりは黒である（昭島市　山内康夫）。

〔中〕11月22日にハンガーアウトしたAIR NIUGINI向けのフレンドシップ。以前の登録番号はJA8636（豊中市　伊藤直行）。

〔下〕フォード米大統領来日に先がけ警備のチェック等のため飛来したＶＣ-137Ｃ。11月7日伊丹にて（豊中市　伊藤直行）。

インド空軍のMiG-21

Indian AF MiG-21 fighter

(cf. Color photos, P. 16 and feature, P. 60)

(カラーおよび本文60ページ記事参照)

〔上〕インド空軍の主力戦闘機MiG-21FL。発進前の整備中のもので，490-ℓの落下増槽を吊している。インド空軍では本機をタイプ77と呼んで，1965年以来ライセンス生産しており，約200機を装備している。

〔右〕同じくインド空軍の複座練習型のMiG-21U（タイプ66-600）。垂直尾翼を広くした練習型の新型で，インド空軍のMiG飛行隊は，本機を2機ずつ装備している。写真は整備前席の射出座席をはずしているところ。手前に見えるのは後席で，その細部がよくわかる。

インドネシア空軍のMiG-21

MiG-21 of Indonesian Air Force.

MiG-21FはMiG-21の最初の量産型。インドネシア空軍が領収したのは，R-11エンジンの推力を向上させ，垂直尾翼面積を広くするなどの改造をしたF型の基本型である。

ソ連空軍のMiG-21戦闘機

MiG-21MF

Soviet AF MiG-21 fighter

MiG-21PF Later Series

ソ連空軍の防空部隊に装備されているMiG-21。写真上はモスクワ軍管区の飛行隊に配備されている各機で，MiG-21MF。MiG-21MFはエンジンをR-13(推力最大6,600kg)に換装して性能を向上したMiG-21の最新型。ソ連空軍では1970年ごろから部隊に配備している。この型から写真に見える風防上のバックミラーが取りつけられた。

写真下はMiG-21PF後期型の編隊離陸。MiG-21のPF後期型は，方向安定を改善するために垂直尾翼面積を大きくしたもので，1964年ごろから部隊に引渡されている。この型ではK-13Aミサイル2発のほか，胴体下にGP-9機関砲パックが装備できるようになった。

スカルノ大統領時代にソ連寄りの外交をみせたインドネシア空軍では，Tu-16やIl-28の爆撃機とともにMiG-15，MiG-17，MiG-21の戦闘機，それにMi-4，Mi-6ヘリなど数多くのソ連製航空機を装備した。このうちTu-16とIl-28は，B-25やB-26とともに現在でも主力爆撃機として使われているが，戦闘機の主力はF-86セイバーで，ソ連製戦闘機はほとんどが地上に保管されたままであるという。

ここに紹介するのは15機受領したMiG-21Fの1機で，ジャカルタ郊外の広場に展示されているもの。MiG-21のバリエーションのなかでは，F型はすでに旧型であるが，インドネシア空軍では受領後ほとんど飛行させた気配がみえず，主力戦闘機として存分に活用させたインド空軍とは対称的である。

MiG-21MF

MiG-21MF

前ページは離陸するMiG-21MFの1機，写真上も同じMF型で，パイロットが乗り込むところ。MiG-21は，このMF型の前のPFMF型から主翼下のパイロンが二つ増えて，胴体下をあわせて武装および増装の懸吊装置は計5つとなり，火力，航続力が大幅に増強された。上の写真では主翼下のその懸吊架がよくわかる。MiG-21はパイロット乗降り用ステップなどの装備がなく，写真のようなラダーを使って乗り込む。

SPAD 13

1/28 SCALE KID

①

① アメリカ第27飛行中隊フランク・ルーク機
27th Aero Sqdn. AEF., flown by Lt. Frank Luke

②

② アメリカ第94飛行中隊リッケンバッカー機
94th Aero Sqdn. AEF., flown by Capt. E. Rickenbacker

③

③ イタリア航空隊フランシスコ・バラッカ機
Italian AF., flown by Maj. F. Baracca

④

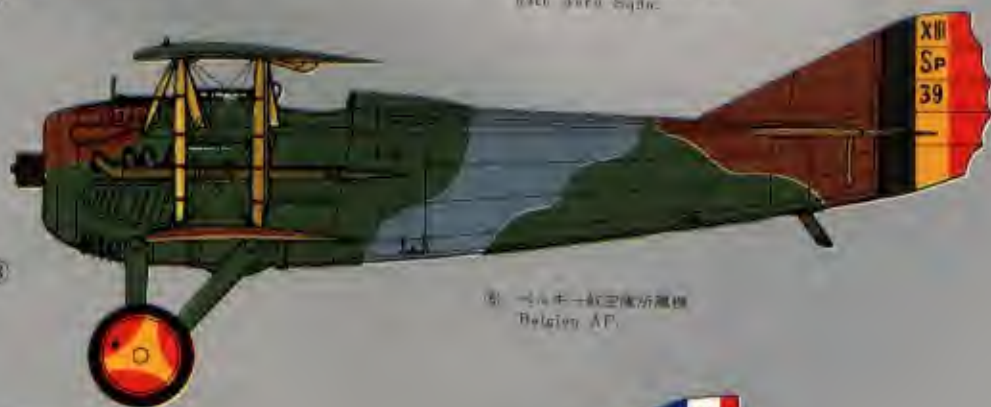
④ フランス第48飛行中隊所属機
Escadrille SPA48

スパッドS.13のバリエーション

⑤ イタリア航空隊所属機 Italian AF

⑥ アメリカ第22飛行中隊所属機 22nd Aero Sqdn.

⑦ アメリカ第94飛行中隊所属機 94th Aero Sqdn.

⑧ ベルギー航空隊所属機 Belgian AF.

⑨ フランス海軍航空隊所属機 French Naval Air Service.

ハイモデリングのための
レベル資料集

スパッド　S.13

SPAD XIII

☆キットについて☆

冬の夜を暖い部屋で，たっぷりと楽しむために第一次大戦のエースの愛機を仕上げてみるのはいかが。

ご存知レベルのスパッドS.13(1/28スケール)のキットは今なお傑作の部に入るモデルで，エンジンを内蔵，古典機そのもののコクピットや詳細な張り線，付属人形のオールドファッション飛行服なども塗装するだけでも楽しい夢のあるキット。今回は塗装説明図を詳細に変更して新発売されている。デカールは図①とは異る大きい鳥のマーク付きのフランク・ルーク機。全長23cm，全幅29cmと1/32単発戦闘機に近い大きさで，ボリュームのあるモデルである。

レベル1/28古典機トリオとして，ソッピース・キャメルとフォッカーDR.1も同時に新装発売中。おちついたアンチークなムードに仕上げればインテリアにも向いている。

☆塗装について☆

図①　フランク・ルーク機。グリーン系3色迷彩で，胴体下と車輪デイスクなどがライトグレー。翼下面はバフ(セールカラー㊳)，支柱はタンまたはウッドブラウン。

図②　リッケンバッカー機。アメリカ航空隊機。ダークグリーン，カーキグリーン，ライトタン，ブラウンとライトグレーの迷彩が標準とされているが，図①や⑥のように必ずしも一定はしていない。胴体下面はライトグレー，翼下面はバフとなっている。

図③と図⑤のイタリア飛行隊機はカーキーグリーンで，下面はライトグレー，翼下面はバフ。

図④と⑨のフランス機はカーキグリーン，ブラウン，ライトグレーの迷彩。図⑧のベルギー機も同様の迷彩となっている。

図⑦の機体は特殊な迷彩機で，黒半つや消しと白の半つや消しのシマ入り迷彩。翼上面は横方向のシマが記入されていると推定され，翼下面はバフまたはライトグレーと思われる。

国籍マークは円の外側から，アメリカは赤，青，白で外周の白ふちなし。フランスは赤，白，青。イタリアは赤，白，緑または緑，白，赤の2種があり，ベルギーは赤，黄，カナダは青，白，赤となっている。

今日はスパッドS.13の代表塗装をまとめてご紹介してみた。レベル・カラーの混色率はキットの説明書に述べてあり，これを応用すれば図⑨までの機体に仕上げることも可能。図に示されていない部分の迷彩は実のところ確定的な資料も少なく，各自で推定してみるのが，このモデルを仕上げる上での個性的な楽しみのひとつである。生の色をあまり多用しないで，アンチークなムードを出すのも，あなたのウデまえのみせどころといえる。　　　（イラストと解説・橋本喜久男）

⇦ フランス空軍第103飛行中隊のマークのスパッドS.13。
SPAD 13 of 103rd Aero Squadron.

⇧ アメリカ陸軍航空隊のスパッドS.7。
SPAD 7 of U.S. Air Service.

KIT :

Koku Fan readers know well what are Revell's 1/28 "trio" antique aircraft models. Together with the Sopwith Camel and Fokker DR. 1, the SPAD 13 recently renewed its painting suggestions. Kit model fans can be satisfied with, in addition to the new paint hints, with an exquisite engine, cockpit and various other parts, giving the genuine appearance of this WWI star fighter. While painting the old-fashioned dolls attached to the kit, you can fully enjoy the long winter night, calling the WWI Aces to your mind.

Decals includ a big bird of Lt. Frank Luke, different from the one figured here in Fig. 1. The 23-cm-length, 29-cm-span large aircraft model, when completed, will be better than anything else as an interior ornament.

PAINTING :

Fig. 1. SPAD 13, 27th Aero Sqdn, American Expeditionary Force, flown by Lt. Frank Luke. Camouflaged in three greenish colors, the bottom surfaces and wheel disks are light gray. The lower surfaces of the wing are buff (Sail color, Revell Color 45). The strut is tan or wood-brown.

Fig. 2. SPAD 13, 94th Aero Sqdn, U.S. Air Svc, flown by Capt. E.V. Rickenbacker. The standard camouflage of the U.S. Air Service aircraft is known to have been the complexity of dark green, khaki-green, light tan, brown and light gray. They have not always been in the standard color scheme, however, as you see in Fig. 1 and Fig. 6. The fuselage bottom is light gray while the wing lower surfaces are buff.

Figs. 3 & 5. SPAD 13, Italian Air Force. Entirely painted in khaki green, while the fuselage bottom is light gray and the wing lower surfaces are buff.

Figs.

Figs. 4 and 9 are SPAD 13 used by French Forces, camouflaged in khaki green, brown and light gray. The SPAD 13 in Fig. 8, Belgian Air Force, has a color scheme similar to them.

Fig. 7. Specially camouflaged in anti-glare black and white streaks. The upper wing is believed to have lateral direction streaks. The bottom surfaces of the lower wing are supposed to be light gray.

National insignia are from outside of the circle: (America) red, blue and white with no hem; (France) red, white and blue; (Italy) red, white and green, or green, white and red; (Belgium) red and yellow; and (Canada) blue, white and red.

Care should be taken not to use primary colors carelessly, otherwise the "antique tone" will be impaired. This is where you show your skill in the modeling art.

(Illustration with comments by Kikuo Hashimoto)

Revell Color for SPAD 13:

RC No.			
1	White	3	Red
4	Yellow	7	Brown
8	Silver	10	Copper
12	Olive drab	16	Dark green
28	Black iron	44	Tan
45	Sail color	43	Wood-brown
55	Khaki	35	Light gray
33	Flat-base		

米陸軍飛行隊第94中隊アクロバット・チームのスパッドS.13。
SPAD XIII of 94th Aero Sqdn.

南方戦線の 1式陸上攻撃機

NAVY TYPE 1 BOMBER

(77ページ本文記事参照)

Mitsubishi Navy Type 1 Bomber in Southern Pacific Theater

Three photos on P. 123-125 were taken in the summer of 1942, Southern front Kanoya Naval Air Group. Note the shortened gunmount of a plane (white-hemmed nat'l insignia on page 123) flying [illegible]

中攻の名で呼ばれた長距離陸攻の双発攻撃機、三菱1式陸上攻撃機。4発の大型爆撃機を開発するあてのなかった日本海軍では、本機にその役割りを果させた。航続距離をのばすためにとられたインテグラル・タンクはすぐれたアイデアであったが、戦場を飛ぶにはもろかった。被弾とともに簡単に火を噴く"一撃ライター"。しかし本機は中国から南太平洋に展開した広大な戦場を飛びまわって獅子ふんじんの働きをした。防弾のもろさをおぎなうパイロットの練磨のウデと気力。ほとんど全機が消耗するまで出撃を繰り返し、海軍では零戦とともにいちばんの働き手でもあった。

123ページから次ページまでの3枚は、堂どうの編隊を組んで進撃する1式陸攻11型（G4M1）、昭和17年夏ころ、南方戦線の鹿屋空所属機。このあと敵戦闘機の跳りょうで消耗がつづきこうした昼間大編隊を組んでの攻撃はまもなく不可能となった。123ページ写真の中央の1機（白フチ日の丸の機体）は、尾部銃座が短かくなっているのに注意。銃の扱いが容易なため、一部はこのような改造をした。

The "integral tank" system was an excellent idea though it was beset with danger of being fired at a stroke. The long-range twin-engined bomber was one of the most reliable aircraft for the Navy in the Chinese and Southern Pacific theaters.

Mitsubishi Type 1 Bomber Mk. 11 (Betty) in Southern Fronts

Balged-out gun-mounts on both sides of the fuselage are Mobel II's destinctive feature.

前ページとこのページも南方で作戦中の1式陸攻11型。このページの1機は鹿屋航空隊の所属機。機体上面の暗緑色と茶褐色の迷彩パターンがよくわかる。胴体両側のブリュスター式おおいの銃座は11型の特徴であった。

(Top) Type 1 Bomber, Model 22 (G4M2), advanced version of Model 11. 752nd NAG. Note the flatbased gun-mount. (Below) Cockpiit.

〔上〕11型の各部を補強して全備重量をふやし、主尾翼を改造して性能を向上した1式陸攻22型（G4M2）。胴体側面の銃座が平らな風防となった。写真の機体は752空の所属機。〔下〕ずんぐりとした胴体の1式陸攻は、機内も立って歩けるほど広かった。写真はそのコクピット。

German Military Aircraft: Messerschmitt Me 210

ドイツ軍用機写真集 ⑦

メッサーシュミット Me 210

鮮明な写真で分析するドイツ軍用機写真集。今回はメッサーシュミットMe210双発複座戦闘機。本機はMe110の後継として期待された重戦であったが、事故が多く、充分な働きをせずに改造型のMe410に移行した。

前ページ2枚とこのページ4枚は、1942年夏、オランダに派遣された第210実験飛行中隊でテスト中のMe210A-1の1機（2H＋DA）である。右開き式の風防、機首先端の7.9mmMG17機銃の銃口、その右横の20mmMG151機関砲の銃口など細部がよくわかる。なぐり書きのように塗られたペロペラ・スピナの白い塗装に注意。

Me 210 of Versuchstaffel 210 in test flight, Holland, Aug. 1942

上と下の写真で、風防の開閉扉の開きぐあいがよくわかる。右上に押し上て開かれ、風防上端にヒンジで固定される。緊急脱出のさいは風防全体がふきとばされるようになっていた。上の写真の胴体の手前の方に見えているのは遠隔操作の13mmMG131機関砲。胴体両側面に後向きに装備されており、450発の弾薬を積んだ。

写真上は爆弾を搭載中のMe210A-2。A-2は爆弾を装備して緩下爆撃もできるようにしたもので、内翼下に爆弾の懸吊架をつけ，110ポンド爆弾8発と551ポンド爆弾2発を装備。写真に見える胴体の爆弾倉内にも1,102ポンド爆弾2発を積むことができた。

写真下と右ページ下も第210実験飛行中隊のMe210A-1（2H+DA）。同飛行中隊はMe210の戦技研究のために編成された部隊で、1942年夏から秋にかけて、オランダのソエステルバーグ飛行場で各種の飛行実験を行なった。

写真右上は同飛行中隊の隊長機（2H+AA）で、同機はこの写真の飛行につづく2回目の飛行で出撃、敵機に遭遇する前に突然スピンに入って墜落、パイロットは死亡している。

P-61 ブラックウイドー

Northrop P-61 Black Widow

双発双尾翼の夜間戦闘機ノースロップP-61ブラックウイドー。実用化が遅く、2次大戦の戦場では充分な活躍ができなかったが、アメリカで最初に開発された夜間専用の戦闘機として、その特異な外形とともに注目された機体の一つである。(1974年10月号108ページ参照)

〔左上〕主翼下に落下増槽を吊したP-61C。P-61は12.7mm機銃4挺の背部砲塔が特徴であったが、尾部バフェテングの悪影響があるとして一時廃止、のちにふたたび復活している。B型では主翼下に懸吊装置をつけて爆弾と増槽が吊せるようになり、C型は最終生産型で、ターボ・スーパーチャージ付きのR-2800-73エンジン(2,800HP)にして性能を向上した。〔左下〕P-61Cの前部操縦席。〔右上〕誘導されるP-61C。〔右下〕太平洋戦線に投入されたP-61A。フイリピンのリンガエン飛行場に着陸する第5空軍第547夜間戦闘中隊の所属機で、1945年5月17日の撮影。

⬇ Landing aboard surface aircraft carriers in emergencies was possible and fins added to the wheelpants to prevent the deck cables from riding up on the landing gear.

●復元されたL.T.A. “パラサイト”●

カーチス F9C スパローホーク《続》

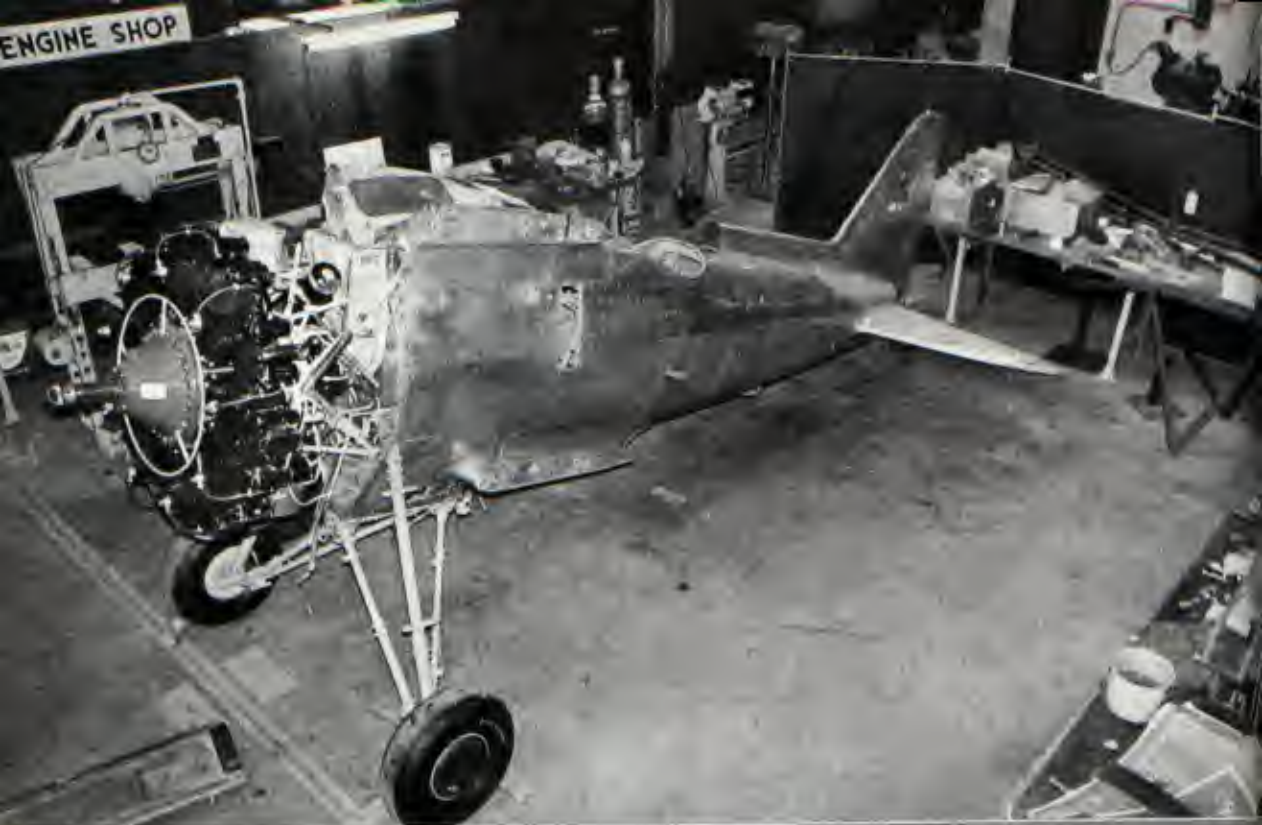
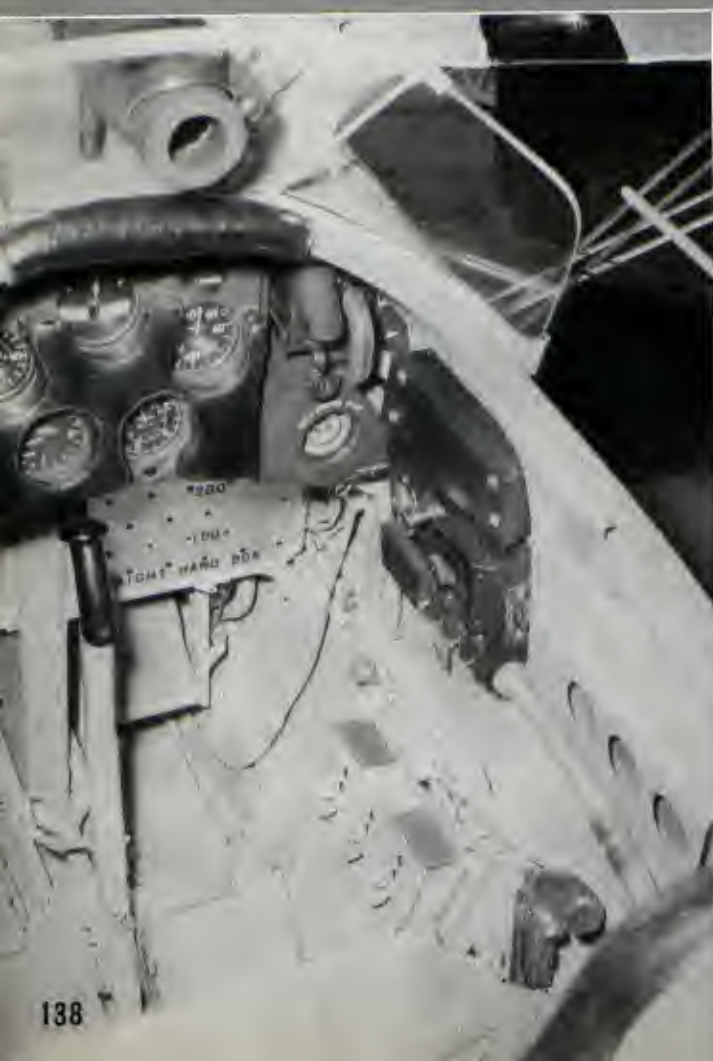
前号につづいてアメリカで復元されたカーチスF9C-2スパローホーク。本文87ページ記事を参照してください。

〔左〕F.N.キネッテ大尉が搭乗する、白帯の隊長機。1933年7月、列機をしたがえて飛行中のスナップ。スパローホークは全幅がグラマンF3Fより6.6フィート（1.98m）短く上翼の全幅は25フィート5インチ（7.74m）。当時海軍でもっとも全幅の短い飛行機であった。

〔左下〕太平洋方面の航空作戦に配備された空母搭載機にあわせて、スパローホークは一時、写真のように尾翼を黒い塗装にした。作戦は洋上はるかで行なわれるため、緊急の際には母艦に着艦しなければならなかったので、写真でおわかりのように新たに着艦フックをつけ、車輪カバーの前面にはフィンをつけて、母艦のデッキ・ケーブルが車輪の上側にまわり込まないようにした。

〔下〕1930年ごろはデモンストレーション飛行が盛んに行なわれ、密集編隊飛行はとくに観衆を喜ばせた。写真もそのデモ飛行の一場面。パイロットの顔の向きから、いちばん向う側の機体が編隊長機であることがわかる。主翼上の吊下げ装置のガイド・レールが、プロペラの位置よりも前方に延びているのは、母船の飛行船にとりつくときの安定性のためである。

←Lt. F. N. Kinette flies lead for another Sparrowhawk in this white trimmed fighter in July 1933.

↓Aerial demonstrations were popular in the 1930's. The lead plane is the farthest as evinced by the turned heads of the closest and middle pilots.

↑Landing gear and engine have just been attached to the fuselage. Note the fresh appearance of the wheels and tires.

〔上〕スミソニアン博物館のシルバーヒル集積所ハンガー内で復元が開始されたスパローホーク。胴体にエンジンと降着装置がちょうど取りつけられたところ。カバーがないので車輪や脚柱がよくわかる。支柱を用いず主翼を直接胴体の上へ載せる構造であったので、スパローホークはぶこつだが頑丈な機体でもあった。

〔左〕わかりにくいスパローホークのコクピットも細部にわたって、あますところなく復元された。エンジン始動用の110V蓄電器が、計器パネルの右下隅に見える。母船からの動力ケーブルがコクピット内に引込まれている。操縦席の右側にあるのは信号弾発射用のピストル。

←Cockpit. Note the power receptacle (110 V) to start the engine in the lower right and the flare pistol to the right of the seat

FINNAIR's "wings"

エアラインの翼

フィンランド航空 ⑧

〔上・下〕フィンランド航空が1971年に導入して国内路線に就役させたダグラスＤＣ-9-14。19の空港を結ぶフィンランド航空の国内空路は世界各国でももっとも周密な航空網の一つ。現在85%がジェット化され、広大な国土をくまなくカバーしている。DC-9-14はＰ＆Ｗ JT-8D-7エンジン装備で客席は80席。最大巡航速度は870～900km/hである。同航空では現在このDC-9-14を6機と燃料積載量を増やして全備重量が大きくなったDC-9-15ＭＣも２機保有している。

Douglas DC-9-14

Douglas O-2H, 1929

Northrop A-17, 1930

North American B-25, 1945

(左上)これもクラークフィールドのダグラスO-2H観測機。1929年の撮影。1次大戦以後2次大戦の開戦まで、息の長い活躍をつづけたダグラスの複葉観測機シリーズ。その1番手がこのO-2で、原型のXO-2は1924年にデビュー。O-2、O-25につづいてつくられたO-38のE型は、真珠湾空襲のころまだ現役であった。O-2Hはリバティ V-1650Aエンジン(450馬力)装備、全幅40ft(12.19m)、全長30ft(9.14m)、全高10ft6in(3.20m)重量4,484lb(2,033kg)、最大速度133.4mph(214km/h)の複葉複座機。7.7mm機銃3挺を装備していた。

(左下)クラークフィールドの上空を飛行するノースロップA-17攻撃機。1936年の撮影。A-17は129機が発注され、1935年夏から部隊に引渡されたが、結局発注されたのは93機にとどまり、その93機も1940年には全機がイギリスとフランスに売却されている。P&W R-1535-19エンジン(825馬力)装備、主翼に7.7mm4挺を装備しているほか後席にも7.7mm旋回銃1挺を積んだ。

(上)太平洋戦の開戦初頭の日本軍の攻撃で、クラークフィールドの米軍航空部隊は壊滅した。しかし1945年初めに再上陸した米空軍はふたたびクラークを奪回した。写真は1945年、同基地に着陸したB-25ミッチェル。

(下)1944年、クラークの日本軍施設を攻撃するダグラスA-20攻撃機。

Douglas A-20 attacking Clark Field, 1944